

「今、なぜ漢方医学が注目されているの？」

明治以降衰退した漢方医学に代わり、医学の主役であった西洋医学は、二十一世紀もさらに発展していくでしょう。そんな中、漢方医学は消滅するどころか、むしろ注目を浴びるようになってきました。西洋医学で治りづらい病気が、漢方単独あるいは両者の併用で思いがけない効果が出たり…その効果が見直されてきています。

二十世紀の人々を支えてきた医療が、科学に裏打ちされた近代西洋医学であった事に異議を唱える人はいないでしょう。そして今後西洋医学はさらに発展し、遺伝子治療や人工臓器など新しい治療法も開発されていくでしょう。

それでは漢方医学は消滅するのかもしれないと、消滅するどころか最近ではむしろ注目を浴びるようになってきました。それは西洋医学で治らない病気が漢方単独あるいは両者の併用で思いがけない効果をあげたり、難病といわれるものに対して免疫力を増強することにより患者のQOL（クオリティ・オブ・ライフ）を上げたり、未病の患者（未病についてはあとで説明します）の治療に適するなど、その効果が見直されているからだと思います。

漢方

漢方の歴史

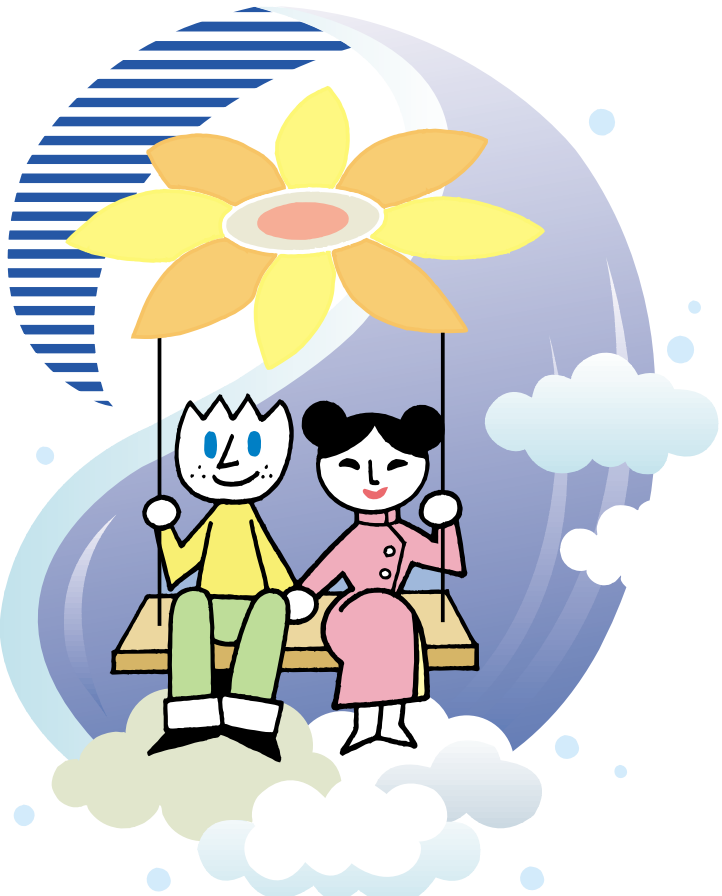
およそ三千年前に古代中国医学が発祥し、二千年ちよと前の漢の時代に急激に進歩し、今の漢方医学の基礎になるものが体系づけられました。一方日本

には六世紀ごろに仏教伝来とともに伝わり、江戸中期までに日本の風土と体質にあつた日本独自の漢方が確立されました。ちなみに、中国では漢方とは言わず中医学と呼んでいます。しかし明治時代に入り西洋医学に圧倒され衰退の一途をたどり、その後一部の医師と薬剤師などにより徐々に研究と開発が続けられてきたのです。そして近年、漢方治療の保険診療が認可されたことにより、再び日本の医療の場を現して日の目を見るようになってきました。

西洋医学

西洋医学と漢方医学の共存

例えば、がんを例にとると、さまざまな取り組みにもかかわらず患者は増加し続けております。日本では四十歳代から八十歳代までの死因一位ががんです。がんは群をぬいて重大な疾病であるだけに、総合力で対処するといった方向が医学界の共通した認識になってきました。漢方の本場中国では、がんをはじめとする難病のよつにどちらか一方の治療だけではうまくいかない領域には、西洋医学



寺小屋「おくすり塾」

基準薬局リスト

横手市

石田薬局	☎0182-32-0069	℡32-9342
オレンジ薬局横手店	☎0182-36-3177	℡36-3178
鍛冶町さいた薬局	☎0182-33-1751	℡33-1752
さいた薬局	☎0182-33-4814	℡33-1273
斉太薬局駅前店	☎0182-33-6662	℡33-6662
下田薬局	☎0182-32-0583	℡32-0583
高橋薬局	☎0182-32-5189	℡32-8965
ネノヒ薬局	☎0182-32-2520	℡32-2521
平鹿調剤薬局	☎0182-33-2272	℡33-3144
やまざ薬局	☎0182-32-2739	℡32-8934
横手南薬局	☎0182-32-2422	℡33-6064

平鹿郡

青山薬局	☎0182-42-4003	℡42-0750
雄物川みよし薬局	☎0182-22-3434	℡22-3435
にしはら薬局	☎0182-42-3505	℡42-3512
橋本薬局	☎0182-22-4149	℡56-2188
ヤナギ薬局	☎0182-22-3013	℡22-4200

湯沢市

雄勝調剤薬局	☎0183-72-3210	℡73-8436
つるだて薬局	☎0183-72-3813	℡72-3814
ユザワ薬局	☎0183-73-3312	℡72-0777

雄勝郡

あべ薬局	☎0183-62-0089	℡62-2603
健生堂薬局	☎0183-62-0117	℡62-0118
小町堂薬局	☎0183-52-4264	℡52-4782
静寿堂薬局	☎0183-62-0121	℡62-0122



お薬手帳



基準薬局の看板

秋田県薬剤師会

秋田市千秋久保田町6-6 TEL.018-833-2334
E-mail: info@akiyaku.or.jp
http://www.akiyaku.or.jp

老

私たちがの身体や脳は年齢とともに衰えてきます。女性は五十歳前後に更年期に入り、不定愁訴が起きやすくなり閉経を迎えます。

男性は髪の毛が薄くなったり白髪になり、精力も落ちてきます。男女とも歯や足腰が弱くなり、記憶力や運動能力も低下します。こうした老化現象は早くから始まる人と八十歳でも元気がつらうの人がいるように個人差が大きいのです。

老

老化の西と東の解釈の違い

と漢方医学が協力し合って治療していく方法が何十年前から試みられていました。特にガンに対しては、西洋医学の診断機器をフルに活用し、外科療法、放射線療法、化学療法をしながら漢方治療を積極的にを行い、進行を抑えたり、手術後の身体機能の衰えを回復させ、放射線治療や化学療法の効果を高め、一方では副作用を軽減するなど、西洋医学の治療と組み合わせる患者に少しでも有利な方法を生み出そうとしています。この動きは、最近になって日本でも少しずつ見直され、試みられてきております。

未

中国医学の古典「黄帝内経」に「上工は未病を治し、中工は已病を治す」という有名な言葉があります。この意味は優れた医師は、完全に病気になる前に治療し、並の医者は既に病気が進行したり、手遅れになってからあわてて治療し始めることを意味しています。未病という言葉はなじみがないかもしれ

未

未病を治療するとは？

も確かです。老化の原因は様々ですが、西洋医学ではホルモンの分泌不足や血管の硬化などをあげ、食事、運動、飲酒、タバコなどの生活習慣を重くみています。

漢方医学では、腎に蓄えられている「腎精」と呼ばれる微量物質を非常に重視し、それは人の発育成長、生殖をコントロールする他、脳の働きを促進し、血管の若さを保つなど広範な働きを持つ生命の源で、目、耳、骨、血管など老化と密接な関係があるとしています。腎精が作られる場所は、「命門」というツボと想像され、補う生薬としては、鹿茸、海馬、蟻、山薬、熟地黄などが代表的なものです。

健康食品

薬事法によって具体的効果の広告規制を受けている医薬品と異なり、健康食品の広告は何でもありで、全部が全部というわけではありませんが、オーバ

ませんが漢方用語で真の健康体でもなく病気でもない状態を指します。いわば半健康体と言えよいのでしょうか。問題は未病の人たちが将来何らかの病気にかかる確率が高いことです。今後、高齢社会が進みますと、この未病の人はさらに増え続けるでしょう。西洋医学には今まで未病対策はありませんでした。いやそれは、今の健康保険制度内ではできないからなのです。

しかし最近、厚労省では増え続ける医療費の抑制の意味と国民の健康を願う両面から「セルフメディケーション」すなわち自分の身体は自分である程度管理し守るべきであると明言するようになりました。そういうことで、食事のとり方、適度な運動、定期検診、漢方薬や健康食品の上手な使用などが不可欠となってくるわけです。

現在の医療機関のほかに、健康増進など予防医学も実践する総合的な医療健康センターのようなもの、あるいは高度な西洋医学と東洋医学を組み合わせた医療施設などが、二十一世紀のいつか全国のあちこちに設置されればと夢に描いております。

(下田薬局 下田孝雄)

一な表現が多く、消費者の健康志向を逆手にとるような傾向にあります。次々とあやしげな商品や意味のないサプリメントが出ています。またインターネットによる個人無許可輸入業者が取り扱ったタイクド商品などは死者までも出ています。将来、何にでも効くような広告、体験談など掲載した広告文は規制されていくはずですが、購入する際はぜひ「JHFAマーク」の表示があるかを確認することをおすすめします。

私の考えは、身体にいいという健康食品を断片的に取り入れるよりも、基本的な食生活を今一度見直した方が、はるかに賢明だと思います。例えば、ご飯と具だくさんの味噌汁などがその一例です。